

南仏治安情報 (2012年3月)

■プロヴァンス地方

1. 外国人観光客を狙った詐欺事件の発生

3月に入りヴォークリューズ県内の高速道路A9上で、警察官を装った2人組の男がドイツ人観光客とルクセンブルグ人観光客に対し検問を口実に、多額の現金や宝飾品を盗む事件が発生しました。今後夏場の観光シーズンに向け、レンタカーや外国ナンバーの車を狙った同様の犯行が繰り返される恐れがあります。旅行の際などには十分ご注意ください。

2. 武器を使用した強盗事件の多発

3月中には未遂も含め16件の武器を使用した強盗事件が発生しました。被害場所はタバコ屋やパン屋、宝石店の他ホテルも含まれており、中には店内に居合わせた客の財布を盗んで逃走する犯人もいました。人気の少ない6~8時台の開店直後や閉店時の20時頃に被害が集中していますので、この時間帯には十分ご注意ください。

3. 第二次世界大戦の不発弾処理

1月にもマルセイユでは大型の不発弾が処理されましたが、3月9日La Joliette地区の工事現場で650kgの火薬を含む1943年に投下されたドイツ製の不発弾が発見され、工事機材が触れ一部が爆発し作業員2名が軽症を負いました。3月18日に爆弾を撤去し処理するため、当地区直径200メートルの範囲で住民が避難、駐車および交通規制が行われました。

4. マルセイユ市内や電車車両への落書き被害について

塗装スプレーを用いた大規模な落書きは大都市でよく見られますが、マルセイユ市では毎年14ヘクタール(Velodrome20個分)の落書き処理をしています。加えて市内に停車中の地下鉄車両100台、TER車両2400台が毎年被害に遭っている旨報告されています(被害額約90万ユーロ)。同市では繰り返し被害に遭う場所への監視カメラを増強するなど取り組みを進めています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. 二輪車窃盗被疑者の大量検挙

当地方で頻繁に発生しているスクーター・バイクなどの盗難に対し、二輪車窃盗対策本部が1月に設置され早くも功を奏しています。2011年11月~12月には約1500件の盗難届が出されていましたが、3月までに約60人の容疑者が取調べを受け64台の盗難車が発見されました。これまでの捜査で、チュニジアへ盗難二輪車を送り込む密売ルートが存在が明らかになってきています。

2. コルシカ島沖の地震活動

3月4日4時47分、コルシカ島西側、Ajaccio湾80kmの沖合いでマグニチュード4.4の地震が起き、コルシカ島および当地方で揺れが観測されました。同じ震源による地震は過去9ヶ月で今回が3回目(2011年7月2日マグニチュード4、7月7日マグニチュード5.5)に当たります。

3. ペットを狙った毒物による被害

3月中旬にニース港近くの Arson 広場を散歩中の犬が、何かを摂取したため中毒症状を起こす事件がありました。他にも当地区では猫や鳩などが被害に遭って中毒死しており、警察へ被害届も出されています。2011年2月にもニース市 Gorbella 地区で、小動物の変死が続いたこともあり、何者かによる犯行と見られています。ペットを飼われている方はご注意ください。

4. ギョウレツケムシの発生に注意

春の訪れと共に当地方に多く生息しているギョウレツケムシ (Chenille processionnaire) の被害も見られるようになりました。この毛虫は松の木に大きな繭状の巣を作り、2~4月にサナギになるため地上に降り、行列を作って移動します。毒性が強く飛散した毛に触れた場合、強いアレルギー反応が起こりますので、十分ご注意ください。

■ミディ・ピレネー地方

1. 連続銃乱射事件の発生

アルジェリア系白人男性モハメド・メラ容疑者により、3月11日市内で軍人1名が射殺、15日 Montauban 市で軍人3名が狙撃(2名死亡)、19日朝にはトゥールーズ市内のユダヤ人学校で狙撃され教師1名、子供3名が死亡しました。3月22日に自宅に立て籠もり、32時間にわたる特殊警察による交渉の末、警察との銃撃戦となり窓から転落して死亡しました。

2. フランス国内におけるテロリスト活動への監視強化

上記の事件の調査が進む上で、容疑者がアフガニスタン渡航歴のある要注意人物であり、パレスチナ軍事介入への報復を目的とし、カタールの衛星テレビ局 Al-Jazeera に自ら撮影した銃殺時の映像を送ったことが明らかになりました。これを受け仏警察はイスラム原理主義者で事件への関与の強い容疑者の兄を逮捕、更に国内のテロ活動への監視を強めていく予定です。

3. ラングドック・ルシヨン地方の SNCF 路線の治安について

フランス国鉄 SNCF の発表によると、2011年の TER 地方路線内での暴力事件はフランス全土で 1.5% 増加、南仏マルセイユ~ペルピニャン路線では 9% の増加傾向にあることが明らかになりました。ラングドック・ルシヨン地方では器物破損や窃盗事件は減少していますが、車掌など職員への暴力行為が年平均 80 件と多く発生しています。

4. 屋内に潜むアレルギー源に注意

近年花粉症や大気汚染などでアレルギー症状を訴える人が増えており、フランス国内では人口の 7~8% が喘息に悩まされているようです。花粉や排気ガスなど屋外に原因がある他、屋内でのアレルギー源にも注目されています。鼻炎・喘息の半数はダニが起因しており、家具などから飛散される塗料や揮発性接着剤、カビなども深刻なアレルギーを起こす要因です。医師団は毎日最低 20 分間の換気と呼びかけています。